

額がある。第八回使節団が長雨で四日間滞在した際に、写字官の李寿長が執筆されたという。

竜燈と竜神の池

般若寺の伝説では、第三十二代用明天皇はわずか二年のご在位であったが、豊後国の般若姫が世に知られた美人であると聞かれ皇都へ迎えられた。その途中、ここの沖で嵐のため船が沈没してしまっ

大嶋 敦子

自然賛歌

極楽寺山の自然観察 (一)

妹尾 冶人

極楽寺三十七丁碑のある旧登山道の入口は平良二号トンネル(車は通れない)を抜けて右手のバイパス側道を100m程進み、お菊地藏さんと対向するあたりに「山は緑が好き」と書いた廿日市消防本部の大きな看板が壊れたまま放置されている。この旧登山道はひどく荒れ果てていたが昨年頃から旧登山道をいっくしむ地元の人達の手で整備され、目印のテープが付けられた。しかしこの道は歩きづらいのでバイパス側道をもう少し進み、廿日市高架橋の起点あたりに登山口が開発されている、この方が歩きやすい。

旧登山道に入ると孟宗竹の竹藪でテープをたよりに進むと谷筋にイノシシの「ぬた湯」がある、体についた虫を落とすため泥遊びをした後、木に体をこすりつける。その為ぬた湯近くの樹木には

泥土と毛がついている。

猪の生活力はすごい。強靱な鼻先で土を掘って、筍・山いも・ワラビ等を掘り出して食べる。またその鼻の嗅覚には驚くばかりで冬期では地上部は枯れて分らない苦なのにその場所を嗅ぎ出して食べる。

中国の二十四孝の話に冬に筍を見つけた話があるが、これは孝行息子に免じて筍が出て来たもので、猪は嗅覚で土中深くにある筍を掘り出して食べる。そして贅沢にも竹の皮はその場にのこしていくから憎たらしい。しかし自然はよくしたもので、猪や人間に掘られても竹の生活力もすごい、地下茎をどんどん伸ばして広がって行く。放任しておくと竹が森を枯らすと言われる。正に破竹の勢いだ。

さて猪のぬた湯を過ぎて稜線に出るこの辺に三丁碑があってもよさそうなのに見当たらない。きょろきょろと石碑を探していたところ珍しい布袋竹を発見した。布袋竹は下部の節間がいびつに、つまるのが特徴で(写真参照)これを美術品に加工したり、そのまま竹の杖にして使用される。布袋竹は野生のものではなく、誰かがここに植えたも



のだろうと思う。現在は一〇本程だが、今年出た竹もあり将来増えることを期待する。

四丁碑の手前に石地藏がある。三段の台座の上に高さ七二cmの地藏さんが安置され正面に「立石又兵衛」左側に「宝曆十三

と刻銘がある。宝曆十三年は西暦一七六三年で、お菊地藏さんが祀られた翌年に当たる。よく見るとこの地藏さんの連華台は逆さに伏せられている。水害でくずれたものを再建する際に間違えたものと思われる。三丁碑も水害でこの辺に埋まっていたのではないかと思われる。

地藏さんに一礼して少し登ると、なかなか道となり右手に四丁碑がある。四丁碑には立石屋藤五良とあり地藏さんの寄進者、立石又兵衛の一族と思われる。(次号に続く)
猪の生きる力を褒めてやる。

会報『さくらお』第128号

平成18年10月10日 発行

廿日市市郷土文化研究会事務局

〒738-0014廿日市市住吉2-2-16

廿日市市市民活動センター内

印刷 シゲモト印刷